

気温とガス、食中毒の関係

D班

D班 分析テーマ：食中毒やガスの気温との関係性を調査

仮説

- ✓ 気温上昇による**食中毒の件数**の増加
- ✓ 気温上昇による**ガスの販売量**の増加

分析過程

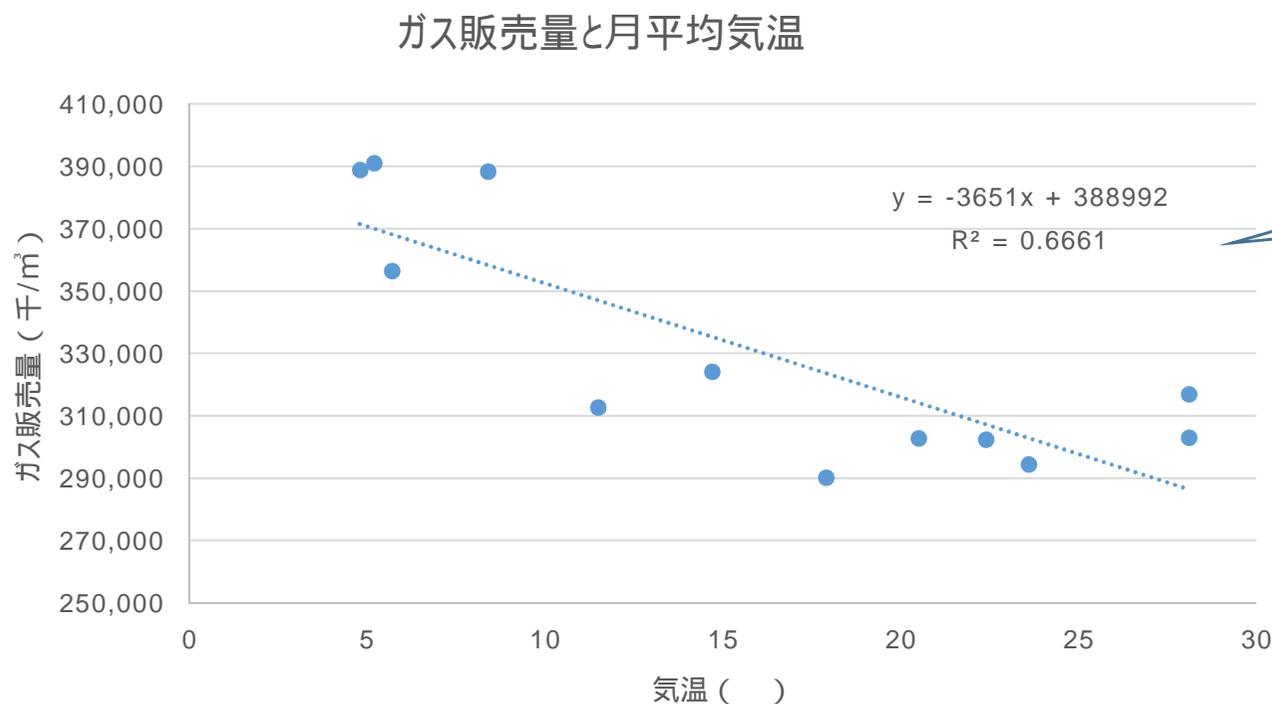
食中毒月別件数 愛知県（2000）：厚労省

東邦ガス月別ガス販売量（2017）：東邦ガス

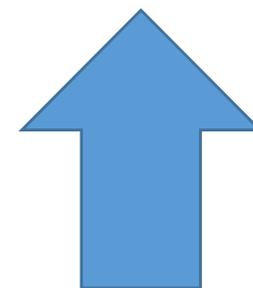
気温月別平均 愛知県名古屋市（2000、2017 気象庁）

分析結果 (ガス販売量と気温の関係)

✓ 東邦ガス月別ガス販売量 (2017)



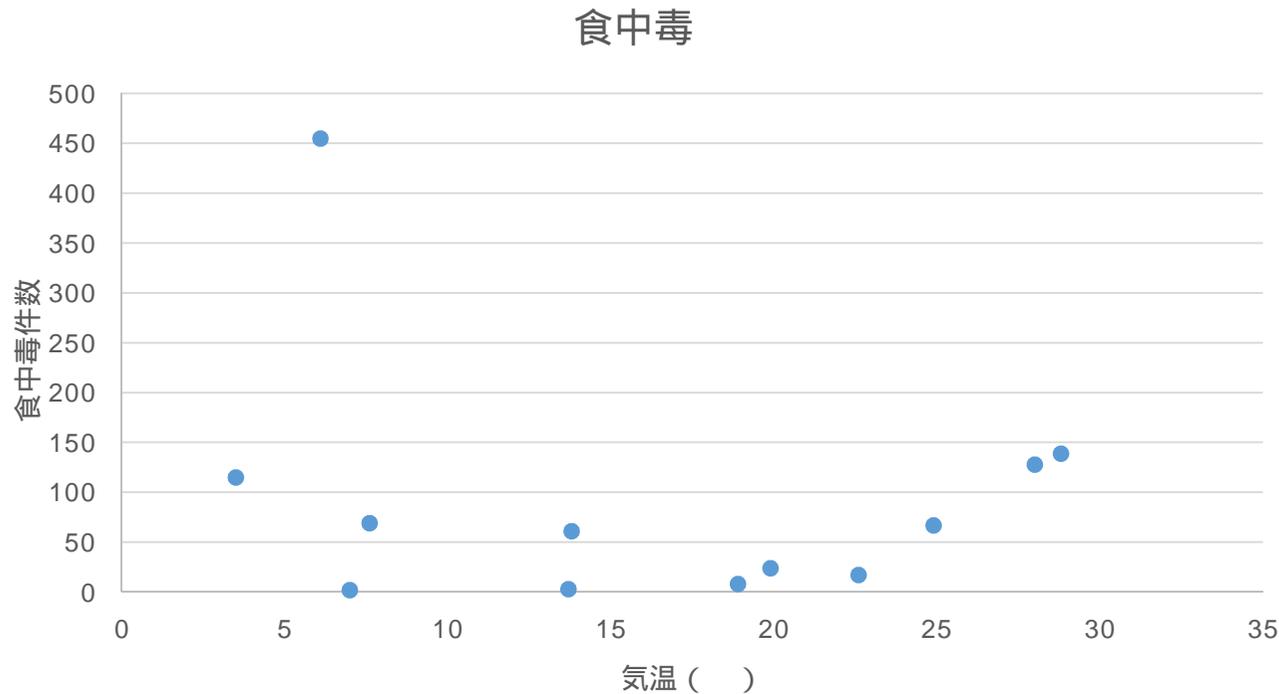
相関係数
-0.816



高い相関

分析結果 (食中毒と気温の関係)

✓ 食中毒月別件数 愛知県 (2000)

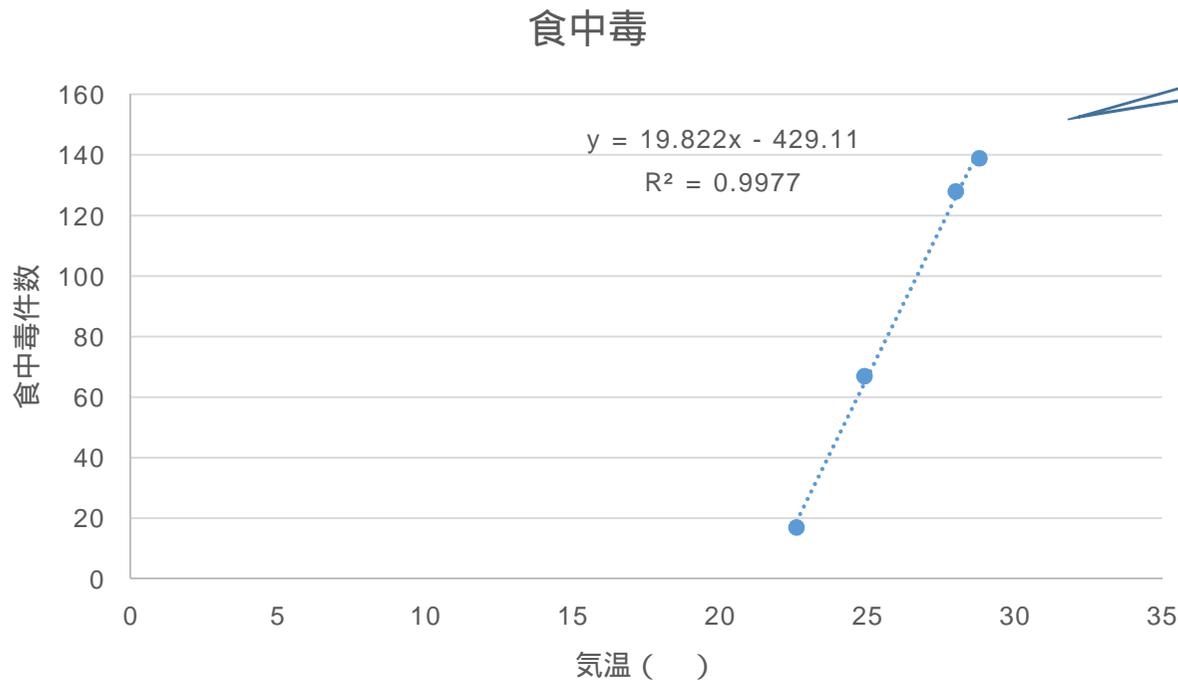


年月	名古屋 平均気温()	愛知県食中毒件数
Jan-00	6.1	455
Feb-00	3.5	115
Mar-00	7.6	69
Apr-00	13.8	61
May-00	19.9	24
Jun-00	22.6	17
Jul-00	28	128
Aug-00	28.8	139
Sep-00	24.9	67
Oct-00	18.9	8
Nov-00	13.7	3
Dec-00	7	2

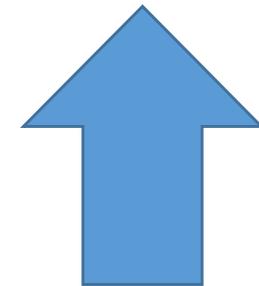
7月、8月に集中している

分析結果 (食中毒と気温の関係)

✓ 食中毒月別件数 愛知県 (2000) 6月~9月



相関係数
-0.998



高い相関

考察・まとめ

< ガスと気温 >

- ・ 気温が低下するにつれて販売量増加
 - 夏： 料理、入浴の短縮化
 - 冬： 暖房機器の利用、入浴の長時間化

< 食中毒と気温 >

- ・ 20 以上に関して相関係数が高いことが見られた
 - 食中毒には20 以上の温度が必要なのでは？
- ・ 冬にも温度とは別の結果が見られた